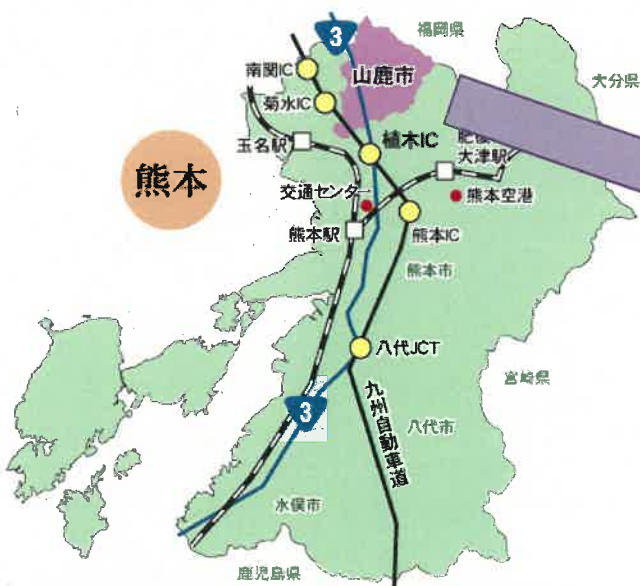


令和元年度鳥獣対策優良活動表彰

令和2年2月20日
農林水産省本館7階講堂

たけのこ掘り 観光農園

山鹿市鹿北町浦方地区
発表者：最上 弘一



● 浦方 (うらがた) 地区の概要

- ・ 山鹿市北西部 (旧鹿北町) に位置
- ・ 現世帯数：50戸 (令和2年2月現在)
- ・ 主要作物：米・たけのこ・栗・スイカなど

中山間地区のためイノシシによる 農作物への被害が増加 → 侵入防止柵の設置

浦方地区では、平成24年度から国や市の補助事業を活用して、侵入防止柵（ワイヤーメッシュ柵）の設置を行い、被害防止を図ろうとしてきた。

実施年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
施工延長	1,300m	4,012m	654m



勉強せずに柵を設置

- ・柵の表裏や周囲の環境など考慮せず設置
- ・山際に延々と設置
- ・施工（建込み）が甘い
- ・柵を設置して安心してしまっていた など

侵入が止まらない！
→ 耕作者のモチベーション低下



熊本県の補助事業を活用しつつ 鳥獣被害防止に取り組む（平成27年度～）

平成27年度 鳥獣被害対策担い手育成加速化（対策強化）事業

H27.9.15 井上雅央氏の現地指導
→地区内を巡回指導していただき、問題点を次々に指摘。
柵に関しては「だめな柵の見本」とまで言われる。

H27.9.29～30 島根県美郷町への研修
→現地指導後、すぐに先進地視察へ。
先進地として有名だった島根県美郷町へ1泊2日の研修

「きっかけ」となった美郷町での研修

研修の様子

●座学

・町役場のご担当者様と婦人会代表からお話をいただく

●現地視察

・ほ場を見学し説明を受ける
・青空サロン市場にて婦人会の方々から朝食とおもてなしを受ける



「みんなで勉強」して 地域ぐるみで鳥獣被害対策を開始する！

美郷町の研修で学んだこと

- ・ 知らずに行っている「えづけ」が原因
- ・ 勉強して張った柵は効果がある
- ・ ひそみ場をなくす・・・ など



最も重要なこと

「浦方地区の全員が同じ方向を向くこと」

- ・ 農家・非農家の区別をなくす
- ・ みんなで正しい知識を学ぶ
- ・ みんなで地区の現状を確認する
- ・ 確認した情報をみんなで共有する



① みんなで勉強

地区での勉強会の実施・被害の現状を把握



- ・ 定期的に集会を開催

- ・ 浦方地区の鳥獣（イノシシ）の被害状況をまとめて、みんなで共有する（被害マップの作成）



監視用
カメラ



被害が発生
しそうな箇所

- ・ 被害が顕著な数か所にカメラを設置し、どうやって被害が起きるのかを検証する

②守れる田畑・農地づくり 集落内の点検やひそみ場の除去を行う



←守れる高さ・範囲に柿を伐採
↓ひそみ場や柵周辺の除草作業



③囲いや追い払い 既設の侵入防止柵の整備・維持管理



- 農地の場所により6班編成で管理
- 年に2回は地区全体で点検を行う



きっかけは鳥獣被害対策 被害を止めて「観光たけのこ園」を発展！

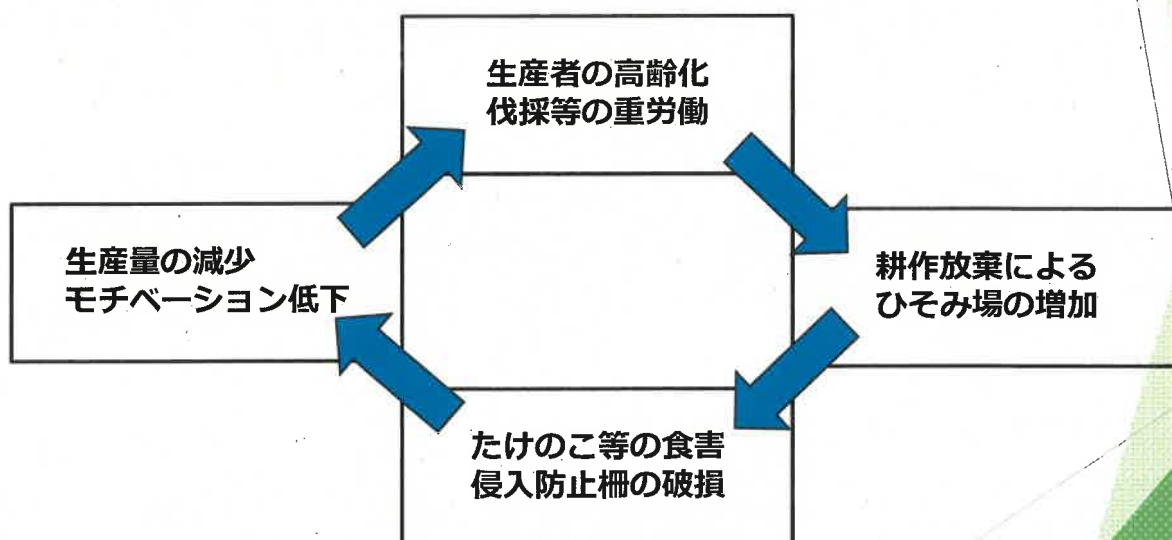
- 平成24年度に竹林の荒廃を防ぐため、周辺農家で任意団体を立ち上げ。
- 平成25年1月から竹林の整備を開始し、観光たけのこ園を開園。
- 行政の補助金などを活用しつつ、耕作放棄地の解消や農園のPRを行う。
→耕作放棄地再生利用緊急対策事業、里モンプロジェクト、えづけSTOP！鳥獣被害防止対策事業 など

【基本情報】

- 1 名称
浦方観光たけのこ園
- 2 住所
山鹿市鹿北町芋生2421-1
- 3 代表者
中島 純之
- 4 開園時期
3月下旬から4月下旬まで

事業年度	取扱数量 (トン)	取扱金額 (千円)	施設利用者数 (人)
平成26年度	1.5	480	50
平成27年度	2.3	730	120
平成28年度	2.6	860	180
平成29年度	3.2	960	200
平成30年度	4.0	1,200	240
令和元年度	5.0	1,350	260

平成24年度までは竹林が荒廃 地区ではそれに伴う悪循環が発生・・・



竹林の荒廃を防ぐため 土地の所有者が共同で作業を開始



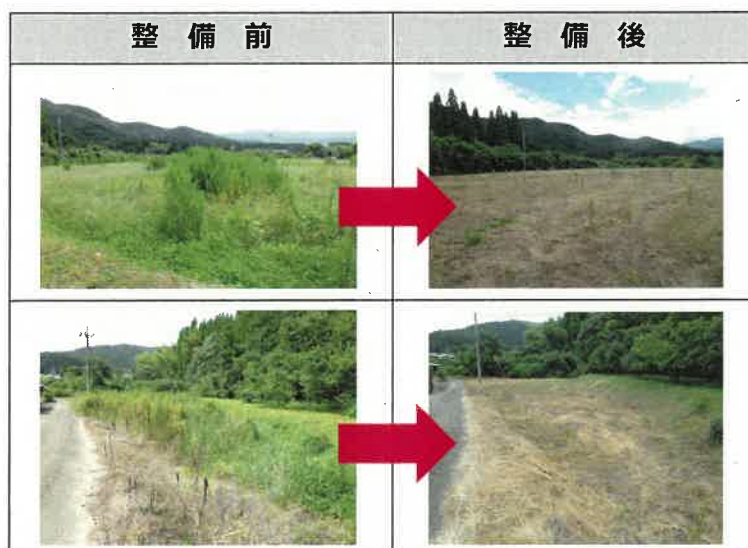
●工夫している点

- ・作業はすべて共同で行う。
- ・得意分野ごとに役割を分担。
→作業が楽になり、楽しくなり、
長続きすることができる。

●主な作業

- ・竹の伐採
- ・竹の片づけ、焼却
- ・園内の除草
- ・肥料の散布
- ・トウガ1本での収穫
- ・出荷 など

竹林付近の耕作放棄地（ひそみ場）を解消し 新たに栗の定植を行う



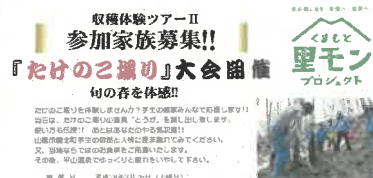
●平成28年度から実施

- ・約4,350㎡の耕作放棄地を整備
- ・あと数年後には栗を収穫可能
- ・ひそみ場の解消と新たな収入源確立

【追加効果】

- ・荒廃している土地をきれいに整備
- ↓
- ・隣の耕作者も、荒廃した自分の土地を自発的にきれいに整備し始める。

各種メディアや補助金等を活用し 観光たけのこ園をPR



● 地元との連携

たけのこ街道協議会（地元協議会）との連携を図りながら、地産地消の取組みを実施している。

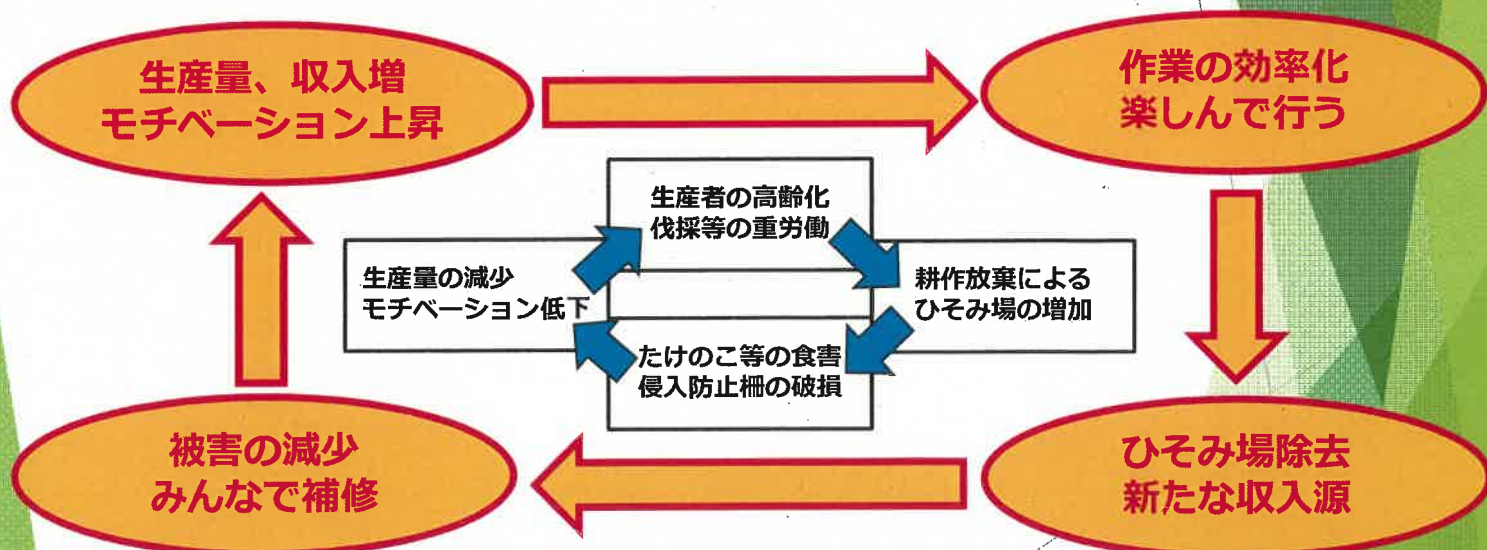
● 新聞・メディア等への露出

近年では、年間複数回の取材を受けるまでに発展してきた。

● 都市と農村をつなぐ観光事業

たけのこ掘り体験を通じて、その他の山鹿市特産品や温泉などをPRし、リピーターの獲得を図る。

これまで陥っていた悪循環から脱却 さらなる発展を目指す！



たけのこ堀り体験風景



今後の取組みについて

◎ 浦方地区の「みんな」で鳥獣被害対策に取り組む

- ・まだ手を付けていない「ひそみ場」の除去
→地区内に数箇所あるため、計画を立てて伐採等を行う。
- ・各班長が中心となって、侵入防止柵の維持・補修を行う。
→H30年度も国庫事業を活用し、水田に約800mのWM柵を設置。
これから経過を確認しつつ、既設の柵の維持・補修に努める。
- ・地区の連帯感の維持
→鳥獣被害対策だけを地区全体で行うのではなく、地区の行事なども頻繁に開催し、常に区民全員が連帯感を保つ。